

サバ大学海洋研究所に甲殻類の孵化場が完成

マレーシアサバ大学海洋研究所准教授 望月秀郎

すでにJIFAS NEWS142号でお知らせした当研究所内に建設中であったRecirculating Aquaculture System (RAS)を取り入れたエビ・カニ類の孵化場(Hatchery)がようやく完成し、8月23日に建設業者からサバ大学に引き渡された。現在、バナメイエビ(Litopenaeus vannamei)、オニテナガエビ(Macrobrachium rosenbergi)およびノコギリガザミ(Sylla serrata)の種苗生産が行われており、生産されたエビ・カニの種苗は学生の卒業論文および修士論文のための実験材料に使用されている。RASには次のような利点がある。

- ① 土地が高価で広い養殖場の建設が困難な場所でも企業的エビ養殖が可能である。
- ② 季節や天候に制約を受けずに1年中生産が可能である。
- ③ 水の再利用により最小限の排水を維持でき、容易に排水規制をクリアーできる。
- ④ 高密度集約生産が安定してできるので、2次産業的計画生産が可能である。
- ⑤ 外界水が流入しないので病原菌の侵入がなく、感染症が発生しない。
- ⑥ 究極の省力化により労働力を低減でき、高齢者や身体障害者の雇用にも適している。



※サバ大学海洋研究所の甲殻類孵化場